



秋の野に、子どもたちの感性が広がっていく

秋季後半、保育園 6園で7回の出張授業を実施—東京から沖縄まで！

☆紙芝居「はらっぱのかくれんぼ」生きもの探し

☆紙芝居「いもむしのたからぶくろ」アオスジアゲハのお母さんを助けよう

☆紙芝居「木の精キロリの不思議ないのり」イチョウの葉で生きものを作ろう



那覇市与儀保育所の4歳児とたからさがし

様々な姿を見せ、豊かな自然の実りに出会う楽しい秋。10月下旬から6つの保育園で、3～5歳児たちがそれぞれの自然プログラムを楽しみました。



●11月5日には、南に移動距離2千キロ離れた那覇市立与儀保育所へ、4歳児たちが、希望が丘公園でいもむしのたからぶくろの活動で楽しみました。

頭上に舞うオオゴマダラチョウ

公園は、有名な国際通りのすぐ横ですが、日本で一番大型の13センチのオオゴマダラチョウがそこここに飛んでいます。保育士さんたちは、「いつも見えています。保育園でも飼育して育てているんですよ。」子どもたちは、公園の草はらから飛び出したたくさんのバッタを手にしては、目をキラキラさせています。「聴覚・臭覚などの気づきへの新たなアプローチを経験することができて良かった。アオスジアゲハのお母さんを助けるという設定はとても親しみを持た。帰ってからも草花を手にとることが増えました。」(金城かおり先生)



●10月29日は高島すみれ保育園4・5歳児。都立赤塚公園で、雨天延期後の秋晴れの下、生きもの探し。テントウムシ・バッタ・クモの巣・クモ・ダンゴムシ…「ありさんを葉っぱが守ってる。」「セミはすぐ死んでしまうから、木についているんだ。」「大きい生きものに見つかる食べられるから、木の穴や葉っぱの下にいる。」と子どもたちの観察から出た考えは鋭い。「グループで協力してとても意欲的だった。事前に4人組で役割を決め、意識も高かった。身近な場でもよく見るといろいろなものを見つけられる楽しさを味わった。」(4・5歳児 落合先生・入野先生・長谷川先生・青木先生)



すみれ保育園4、5歳

第3回講座 環境教育ワークショップ 東京学芸大学名誉教授
「これからのエネルギー問題を考える」佐島群巳先生
12月14日(土) 13:30～16:00 / 板橋区エコポリスセンター
お申込み: 03-3960-6052 **参加費無料**
または www.npo-soe.jp/learning 迄



●11月19日、秋の親子遠足で光が丘公園に出かけた赤塚保育園5歳児さん20人。先生方含め大人22人。始めはキロリのおにごっこ。お母さんたちがオニです。若いお母さんたちは、たちまち子どもたちをつかまえてしまいました。女子男子とかわるがわるオニをやり、体がホカホカに。「いもむしのたからぶくろ」の紙芝居を見てから、親子で探検隊を組んで、いもむしのたからさがしに出発。光が丘公園は広くて体に風が吹き抜ける爽快感がありますが、虫のすみかの草はらは特定の場所にしかありません。花なども咲いているところが少なかったのですが、子どもたちは制限時間が過ぎても、虫や葉っぱの観察にのめりこんでいます。「木の実を見つけたのが楽しかった。」「鳥の声を聞いたのが楽しかった。」「自然の中で過ごす時間がないので、とてもよかった。(保護者)」遠足で親子で自然観察ができた、清々しい日でした。



赤塚遠足いもむしのたからぶくろ
光丘公園保育園親子



●11月26日、栄町保育園は春のプログラム実施に続いて、今回は3歳から5歳まで23人。イチョウの



精キロリの不思議ないのり」です。昨年も実施した場所で、イチョウの造形活動です。「キロリのおにごっこ」で体を温めた後、同名の紙芝居を見てから、イチョウの葉で、生きものなどを作ります。「カブトムシ・星・あり・ライオンの上にチョウ・四つ葉・チョウ・リボン・花・ウサギ車・ギンナン・ライオンと花・葉っぱが落ちているところ・ゾウと太陽・花とチョウ」3歳児さんは見学のはずだったのに、いつのまにか一緒に造形していて、そのうえに、一番たくさん葉を画用紙

いっぱい貼り付けるのが早くてびっくり。そして「感想を言ってくれる人」と尋ねると、13人も発表。コミュニケーション力を堂々発揮。「イチョウの葉の色づき、形の違い、匂いを感性で感じ取りさらにイメージを深めての作品づくりと、子どもたちは夢中で取り組み、発表も自信にあふれていました。(副園長遊喜啓子先生)」「身の回りにある自然を用いて製作したり、季節を感じられる草花を紙芝居を通して知ることができるのはよい機会だと思いました。(来年度運営するバンビ保育園澤田先生)」



●11月27日は緑が丘保育園 4・5歳児39人。サンシテイ団地の近くの中台さくら公園で活動。さすが、中台地区のこの辺は、石器時代から、人がすんでいた遺跡が残り、自然が他の地域より、豊かに残っています。さあ、「いもむしのたからさがし」です。コナラのドングリははじめ秋の自然からの



緑が丘保育園・キロリのおにごっこ

ものを見つけて小さな公園も素晴らしい自然の宝庫でした。

●11月29日向原保育園 4・5歳児40人が、近くのハワイ公園で、「イチョウの木の精キロリの不思議ないのり」で制作活動に取り組みました。「クモ・クワガタとカブト・チョウ・大きな花・四つ葉・ゾウさん・ヒマワリとカブトムシ・花とチョウ・バラの花・クワガタとチョウ・クワガタとカブト・葉が落ちてくるところ・恐竜・花火・宇宙とチョウ・葉っぱ・葉っぱの顔・ザリガニ・ウサギ・四つ葉の花…」とても豊かな種類の造形画ができて驚きました。「オニゴッコで逃げるのが楽しかった」「紙芝居を見るのが楽しかった」「オニゴッコできてよかった」「逃げるのが楽しかった」など感想も活発でした。

「イチョウのおばあさん、これ見て元気になってね～」



(すみれ保育園が、11月21日秋季に2度目の活動で、3・5歳児合同でイチョウの葉の造形に取り組みました。3歳児の面倒を見ながら、5歳児さんは立派なリーダーでした。)

野原遊び

11月17日 城北交通公園
野原遊びの会 (仮称)

志村・坂下・蓮根・清水町周辺の幼児のご両親が子どもたちに、フィールドの遊びを体験させるため、楽しい活動を続けています。私たちSOEは、板橋区家庭教育学級の講師をしたことから知り合って3年目。今回で3回目の「野原遊び」です。時期的にイチョウが舞い散る季節だったことから、イチョウの造形活動に取り組みました。



野外で楽しむ一幼児たちのイチョウ造形活動



- ★「紙芝居もよく見ていたし、創作中も“ピザにしようかな。”“チョウチョも作ろうかな”など自分の世界を広げながら楽しくつくっていた。」
- ★「手作りの紙芝居も楽しそうで。イチョウもペタペタ、大きいぞうさん、小さいぞうさんって言って貼っていました。」
- ★「とても楽しく過ごしていました。葉っぱの絵も今度おうちでやりたい！！とっていました。紙芝居が特に盛り上がっていました。」

センスオブアース 秋の連続講演会



10月5日(土) 第1回講座 会場 板橋区立リサイクルプラザ
生態系学習会
講師 佐々木 寧(やすし)先生・埼玉大学名誉教授

10月5日は秋雨の降る天候の中でしたが、荒川生態系とビオトープの講演会を実施し、熱心な市民がかけつけ真剣に学びました。SOEは、活動の内容の一つとして、学校ビオトープの育成・管理・普及を掲げています。以下当日の内容の要旨を参加者の竹内一雄様が寄せてくださったメッセージを通してお伝えします。

「わたしたちは生きていくためには、自然を本気で守り育てていかなければならないことがよくわかります。このことがビオトープ活動の原点だと思われまます。

佐々木先生のお話によると、ビオトープには本来各国が制度として法律で保護している広大な森林、湖、自然公園、生物保護区などのほかに、人がすむ近くの自然として、池、沼、水辺、並木、立木、やぶ地、湿地、草原、群落なども含まれるそうです。

先生はドイツを例に挙げてドイツではこれらすべての植生空間について国ないし州が詳細なビオトープマップを作って厳密に保全管理に努めているというお話をされました。例えば、あるビオトープを開発のために取り壊すという場合には、その3倍の面積の代替えのビオトープの確保を要求される。私たちの国と比べ自然環境保護に対する熱意の差をまざまざと感じさせられました。」(後略)



11月9日(土) 第2回講座 会場 板橋区立エコポリスセンター

環境教育ワークショップ「食生活から自然・健康・命を考える」
講師 砂金(いさご)健一先生・米屋経営者・元高校教師

砂金氏は「『身土不二』とは、身と土は二つではなく一体である。人の体以前に植物にとっての身土不二があり、植物は土が育てる。海も土が栄養を運び、土が人の命、命は土、人間は土そのもの=身土不二。こだわり農法専門店として、生き残りをかけた。今、人間にとって、最も身近な自然環境は“人間の体”。だれと付き合うか、農民は農地で実践、顔の見える関係ではだめ、心意気、心根、気骨が見える関係へ。名人



は足しげく田へ通うから

結果が出る。玄米は血をきれいにする。排出機能、繊維が多い。がん対策になる。“いただきます”の心はたくさんの命をいただくという言葉。都会人には有気農民とのつながりと心根との交流が身土不二に不可欠である。」砂金さんの最高のぬかを使ってぬか床を作り各自持ち帰り。今おいしくぬか漬けを食べている参加者である。



発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6052
e-mail: info@npo-soe.jp url: npo-soe.jp